

平成30年度 N I E実践報告

鹿児島市立谷山小学校

1 本校N I E教育目標

N I E教育目標		
教育活動に新聞を活用することにより、子供の目を広く社会全体に向けるとともに、情報を正しく選択し、内容を読み解きながら、新聞に親しむことができる。		
低学年目標	中学年目標	高学年目標
新聞を使って遊んだり、写真や漫画を選んだりしながら、新聞に親しむことができる。	調べたことを新聞に表したり、必要な情報を得るために新聞を読んだりすることができる。	編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むことができるとともに、適切な情報の活用の仕方、情報を発信する責任の大きさについて理解することができる。

2 実践内容

(1) 全校で進めていくための体制づくり

本校の研修テーマである「伝え合う力」を育成するために、各学年のN I E担当を中心に、新聞を活用できる場を想定し、一覧表にまとめ、これらをもとに実践を重ねる共通理解を図った。1年間の実践を踏まえ、単元一覧表に活用できそうな単元に印をつけて、来年度も継続的に実施していけるようにした。

谷山小学校 N I E 各学年実践事項について（太字が各学年本年度実践事項）

N I E教育目標					
教育活動に新聞を活用することにより、子供の目を広く社会全体に向けるとともに、情報を正しく選択し、内容を読み解きながら、新聞に親しむことができる。					
低学年目標		中学年目標		高学年目標	
新聞を使って遊んだり、写真や漫画を選んだりしながら、新聞に親しむことができる。		調べたことを新聞に表したり、必要な情報を得るために新聞を読んだりすることができる。		編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むことができるとともに、適切な情報の活用の仕方、情報を発信する責任の大きさについて理解することができる。	
1年	2年	3年	4年	5年	6年
○ひらがな・カタカナ探し →自分の名前のひらがながいくつあるかなど。 ○新聞の遊び ・●体づくり運動 （しっぽとり遊び お腹に当てて走る 小さく折って何人乗れる？） ・●広さ比べ ・●材料用紙費用 ○天気予報の活用 ・●天気のおうつけわり ○子供新聞の活用 ・●読み聞かせ ・●吹き出し、分かること、もの の名前 ○子どものうたの活用 ・●音読 ○ミナミさんちのクイズの活用	○カタカナ探し ・●かたかなのひろば ・●かたかなで書くことば ・●組学習 ・●家庭学習（宅習） ○ことば・漢字探し ・●春・夏・秋・冬がいっぱい ・●同じ部分をもつ漢字 ・●ようすをあらわすことば ○4コマ漫画の活用 →「初め・中・終わり」の意識 ・●おはなしのまぐしになるう ○写真 ニュースを活用 ・●どうぶつ園のじゅうい	○新聞記事の活用 ・●よい聞き手になろう →友だちに知らせたいことを決める際に新聞を活用 ・●せつめいのくふうについて話し合おう →絵や写真を文章内で使うようさをおさえられるように。 ・●「ありがとう」を伝えよう →「ありがとう」作文の投稿 ○新聞でのまとめ →社会など新聞でまとめるとき、新聞のレイアウトを参考にさせる。	○新聞記者の活用 ・●新聞を作ろう ・●アップとルーズで伝える ○新聞をつかったまとめ ・●ウサギのなぞを追って ○オセモコの活用 ・●聞き折りメモを取る練習 ○組の会でのニュースの紹介（N I Eタイム） ○都道府県探し ○記事を読んで要点を話し合う ○読み聞かせ	○新聞記事を読んで感想を書く ・月に1回以上記事に対する感想や考えを書かせる。 ↓ ・組の会・帰りの会でのスピーチに利用 ・長期休業中を活用した新聞づくり ○新聞記者の活用 ・●新聞を読もう ・●情報化した社会とわたしたちの生活 ○オセモコの活用 ○まとめを新聞で	○南風録の活用 ・●言葉調べ、感想を日記に書く ○新聞ワークシートの活用（4コマ漫画、コラム） ・●毎週水曜に実施 ○単元に関わる記事を教材として扱う（資料・データ・地方記事） ○オセモコ通信の活用 ・●掲示、それに対するスピーチ ・●詩の投稿

《その他》

・どの学年も新聞を目にすることができないか？ → 一般紙… 6年から

小学生新聞… 1年から 壁に新聞を掛け、手に取りやすいようにする。（詳しくは要検討）

(2) 学習指導要領に基づいた教科・領域での活用（新聞記者の活用）

4年生の国語の単元「新聞をつくろう」では、新聞への興味関心を高める目的で、南日本新聞社の記者の方に来ていただき、新聞社の仕事や記事の書き方、取材の仕方などについての講話をいただいた。新聞を実際につくっている新聞記者の方からの話は、新聞をつくる児童の意欲の高まりにつながっていた。

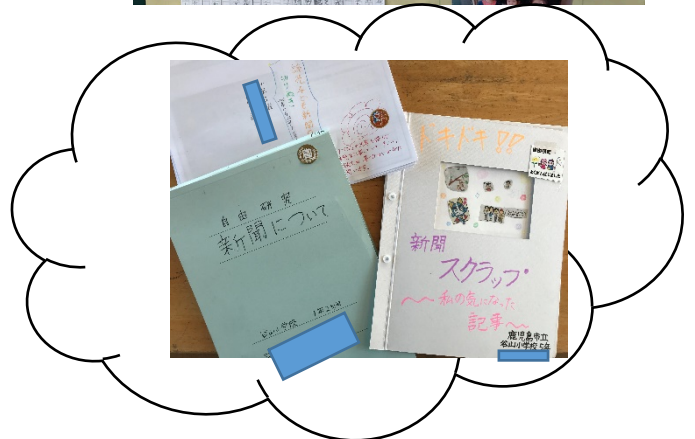
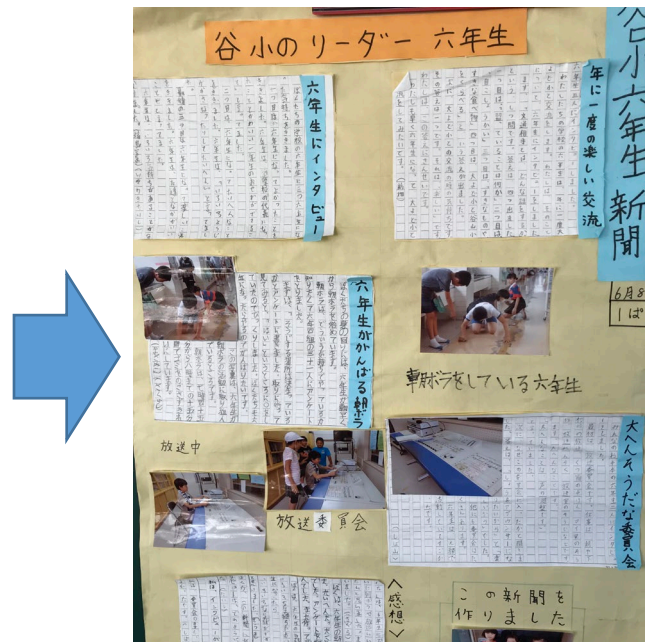
また、5年の国語の単元「新聞を読もう」では、見出しのつけ方、文章構成、記事を書くために配慮していることなどについての講話をいただいた。見出しは決められた短い文字数で表されていることや地方によって記事の伝え方が違うことなど、新聞を読む視点を学ぶよい機会となった。最後に気になる新聞記事を探す活動では、一人一人に与えられたカラーの新聞を進んで開き、集中して記事を読む姿が見られた。

2月に新聞を取り扱った授業を予定している。

ア 4年国語「新聞をつくろう」



イ 5年国語「新聞を読もう」



※ 新聞について夏休みの自由研究に取り組む児童も見られた。

(3) N I Eタイムの設定（学期に一回）

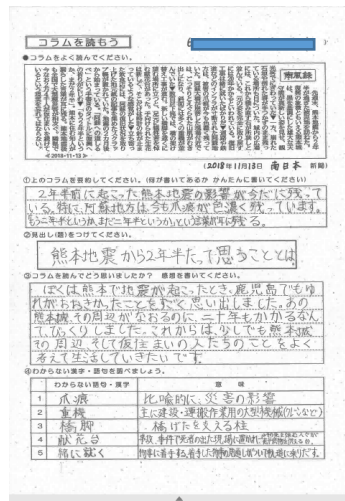
校内研修で作成した一覧表をもとに、1学期と2学期で計2回実施をした。

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
ひらがな探し 漢字探し	ひらがな探し カタカナ探し	気になる記事 探し	都道府県探し	記事読解 (ワークシート)	記事読解



1年生の取組の様子

さらに、6年生においては、読解したことから自分の考えを表現する機会を増やそうと、発展的に週に1度のコラム読解を行った。



低学年の児童も新聞に抵抗を感じることもなく、進んで取り組む姿勢が見られた。決められた文字や自分の名前に使われている文字を見つけると喜ぶ姿が見られた。

3年生では、記事読解の仕方やこういった視点で自分の考えを書けばよいかを学習した。また、4年生では、新聞から都道府県を探し出し、地図帳で位置を確認する活動を行った。

高学年では、記事を読解し、問題に答えたり、自分の考えを書いたりする活動を行った。

2018年11月18日 南日本新聞

①上のコラムを要約してください。(何が書いてあるか かんたんに書いてください)

2年半前に起こった熊本地震の影響が今に残っている。特に阿蘇地方は今も爪痕が色濃く残っています。もう2年半というか、まだ2年半という感じが耳に残る。

②見出し(題)をつけてください。

熊本地震から2年半たつて思うことは

③コラムを読んでどう感じましたか？ 感想を書いてください。

ぼくは熊本で地震が起こったとき、鹿児島でゆれがおおきかったこともたくさん思い出しました。あの熊本城、その周辺がなおるのに、二十年もかかるなんてびっくりしました。これからは、少しでも熊本城の周辺、そして仮住まいの人たちのことをよく考えて生活していきたいです。

④わからない漢字・語句を調べましょう。

	わからない語句・漢字	意味
1	爪痕	比喩的に、災害の影響
2	重機	主に建設・運搬作業用の大型機械(クレーンなど)
3	橋脚	橋げたを支える柱
4	献花台	事故・事件で死者の出た現場に置かれ、花や供物を供える台
5	絡に就く	物事に着手する、着手した物事に従って軌道に乗ります

(4) 新聞コーナーの設置

たくさんの児童が新聞に触れやすい環境づくりとして、「新聞コーナー」を設置した。当初は、図書室に設置をしていたが、効果があまり見られなかったため、校舎の各階に新聞コーナーをつくった。広報委員会の新聞係と連携を取り、週に2回ある委員会活動の時間を使って新聞の配置、移動を行っている。



(5) 親子での取組（ファミリーフォーカスの取組）

学校と児童だけでなく、家庭も巻き込んで取り組めないかと考え、ファミリーフォーカスに取り組んだ。記事を読解し、その記事に対する自分の考えを書き、それを保護者が読み、感想を書く手順での全学年各学期に1回の計2回を実施した。さらに、各学年の多様な見方・考え方に触れさせるために、各学級1枚ずつ回収し、「広がれ家族の話・和・輪」と題し、校内に掲示した。同じ記事でも児童の記事を読む視点は異なり、様々な見方で記事を読んでいることが分かった。



(6) 鹿児島大学との連携

鹿児島大学の田口准教授と連携を図り、見出しをつける活動を通したN I Eによる読解力の変容について科学的に分析した。調査時は、まだN I Eを初めて半年足らずの頃だったこともあり、十分な成果は得られなかったが、新聞に対する抵抗感が少なくなり、有用感が高まってきたことが分かった。

3 成果と課題

(1) 成果

- 学校体制を整えることで、全職員でN I Eに取り組むことができた。
- 各学期限られた活動の中ではあったが、新聞に対する抵抗感は軽減できている。
- 親子での新聞活用について保護者の意見は、概ね好意的であった。

(2) 課題

- 新聞活用の機会を意図的・継続的に実施していく。
- 今年度の反省をもとに、より具体的に教育課程に位置付ける。
- 家庭と連携を取り、取り組みやすいような工夫を加えながら、定期的に親子で新聞に触れる機会を設定する。